

京都駅～東福寺～昼食～河原町

いきなり化外の地、 そして京都一の繁華街へ

ふちんかん

最初のサイコロ振り

朝9時に京都駅前のバスターミナルに集合。すぐろくのスタートである。不肖私が第一回のサイコロを振らせていただく。せっかくの広場だし景気づけに5mほど上空へ20面体サイコロを投げあげた。

「カッーン！」コンクリートタイルにぶつかったサイコロは思いのほか大きな音を出して、そして思った以上に転がっていった。慌ててサイコロを追いかける。そうか普通のサイコロと違い球に近いから転がりやすいんだなあと追いかけながら実感した次第。

この日は曇りとはいえ、秋の観光シーズンは始まっており、かなりの人がバスを待つ行列を作っていた。そんな中で大きな音とともに転がっていくサイコロを追いかけていくオッサングループ、久々に「擲蹙」という言葉が脳裏によぎる。みなさんすみませんでした。しかも出た目に該当するバス路線は無く、サイコロをふり直すことに。サイコロのふり直しは他の方にお譲りすることに。

けっきょく208路線・右回りに決定。京都駅を中心に、東西に長く南北に短い横長の長方形を描くように走る循環路線である。周辺には国立博物館、三十三間堂、智積院、東福寺、東寺、羅生門、梅小路、西本願寺など見どころ多数である。



見どころ多数であるが、2度目のサイコロで選ばれた目的地は九条河原町……。観光地の最寄り停留所ならその名前が付けられているはずで、選ばれたバス停の名前からにはなにも期待できなことが分かる。

七条を東に走り出したバスは鴨川を渡り、東山七条から東大路通を南下する。京都市街の東南端で西に進路を変えふたたび鴨川を渡って九条河原町到着。予想通りの何もなただの交差点。ちなみに満員だったバスは手前の東福寺でほとんどの乗客が降りてしまい、九条河原町で我々が降りてしまうと、残るは人に化けた狐や狸だけという状態だった。

東福寺バス停まで歩く

ひとつ手前の東福寺を訪れることに。バス停ひとつ分が無駄足になるわけだが、これがバスすごろくの宿命なのだ。それに途中の行程にだって発見はある。いやこんな機会でないとな普通の京都の街並みを歩くなんてことはないわけで、それを楽しむのも良いかもしれない、と自分を納得させる。でもみんな歩くの速いなあ・ゆっくり行こうぜえ・ぜえぜえ。



鴨川を渡る手前に小さな水路があり、これが高瀬舟で有名な高瀬川だと、学生時代を京都で過ごしたTさんに教えてもらった。言われなければただの用水路にしか見えないわけで、コレ早くも発見ですな。「高瀬川～流れる岸辺～」口ずさむと、それは広瀬川！とすかさずツッコミも入る。



東山橋で鴨川そしてJR奈良線・京阪電鉄を跨ぐ。鉄道ファンとしてはここで一枚。

そしてようやく東福寺バス停。ここから東福寺までさらに徒歩10分。

東福寺

いきなりHPコピペで恐縮だが東福寺は『摂政九条道家が、奈良における最大の寺院である東大寺に比べ、また奈良で最も盛大を極めた興福寺になぞらえようとの念願で、「東」と「福」の字を取り、京都最大の伽藍を造営したのが慧日（えにち）山東福寺です。嘉禎2年(1236)より建長7年(1255)まで実に19年を費やして完成しました』…以下略ですわ。

<http://www.tofukuji.jp/>

紅葉の名所として知られるが、今回の取材(11/3)では早すぎて、気の早い数本の紅葉が色づいていただけ。数少ない紅葉に多くのレンズが向けられており、紅葉としては早熟でスミマセンと恐縮している感じ。



↑レタッチソフトで思いっきり赤色に振っています、まあ印象色と言うことで
↓緑も撮ってみた。多少レタッチしてます、これもまあ印象色と言うことで





境内を流れる洗玉澗という溪谷にかかる通天橋、屋根付きの回廊である。ここが京都を代表する紅葉名所らしい。先日TV放映されていた11月下旬の東福寺はまさに絢爛の一言。



通天橋を渡り開山堂へ。ここは白砂をチェック模様に掃いた石庭がある。椅子も用意されていてぼんやりすることができ、小さな庭園に無限の宇宙を感じるための空間なのだ。



東福寺をあとに、京阪電車の線路沿いにバス停に向かう。途中で地酒のお店があり、例によって軍曹殿は店主と話をしつつ試飲をしていたが、買わなかったか。地ソースなるものも売っていた。



東福寺バス停で本日2度目となるサイコロだ。ここで南に向かう路線など選ぼうものなら、市街からどんどん外れていき、化外の地を彷徨うことにもなりかねないところだ。

幸いにも選択されたのは207路線・左回り、この路線は南北は九条通と四条通、東西は東大路通と大宮通を四辺とする若干縦長の長方形循環路線、市街地復帰だ。しかも選ばれたバス停は四条西洞院（にしのおういん）、京都でも阪急電車が通り、最も賑わっている四条通のど真ん中。化外の地を彷徨い、物の怪にとられる心配はまず無くなり一安心。

しかし西洞院というと、私にとっては週に一回訪れる勤務地、わずか100mほどの地、この日は私は休日だったが多くの職員は出勤しており、出会ったりするとたいへんバツが悪い。

錦市場そぞろ歩き

ここでは昼食をかねて錦市場を西から東へ。またもHPコピペで恐縮だが『錦市場商店街は京都市のほぼ中心に位置し、日頃から「京の台所」として多くのお客様のニーズに答えて参りました。おそらく、その豊富な品揃えと活気に満ちた雰囲気が人々の心を魅了するのでしょう。』……以下略ですわ <http://www.kyoto-nishiki.or.jp/>



ちなみに京都っこの同僚に聞くと、錦市場は東に行くほど物の値段が上がっていくそうで、とくに東の端っこは商売というよりは趣味でやっているような店とか、料亭に卸した残りだけ売っているような店もあるそうだ。そういえば良い匂いがしていた蒲焼き屋さんも目が飛び出るような値段でしたわ。

錦市場の東端、錦天満宮を確認して食事にする。開店前ですでに何人か並んでいた店屋物屋があり、古店の風格も漂わせている「喜久家」に決定。メニューはうどん・丼もの中心、昔からある食堂といった感じ。

<http://www.kyoto-nishiki.or.jp/shop/kikuyas/kikuyas.htm>



私は親子丼セットを頼む。運ばれてきた親子丼には山椒がかかっており、とても良い香りがする。そういえば職場の近くの阪急そばも七味と一緒に山椒の瓶が置いてあるなあ。京都では丼に山椒はデフォなのか。

味も量も満足できる内容でなかなか良い昼食となった。

錦商店街そぞろ歩きのラストとして東端の錦天満宮に立ち寄る。鳥居が両側の建物に食い込むように立っている。もちろん後から建物をぎりぎりに建てたのだろうが、鳥居が成長して建物の壁に当たったように見える。



ここではケースの中で獅子舞が踊るおみくじロボット2000円が目を引きいた。

錦天満宮をあとにして、四条通へ出て四条高倉から3度目のバス乗車。次の目的地は昼食を取った喜久屋ですでにサイコロを振って決定済み、なんとその目的地とは……偶然なのだが…「西洞院」2度目である……これって職場の近くで遊んでいる私へのバツゲームなんだろうか？



壬生寺へ続く